

近世土佐派記録（六）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学芸術資料館 公開日: 2022-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松尾, 芳樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15014/00000447

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0
International License.



右之通御繪繕分通申上候得共何れ
煤出之上治定申上候以上

申／三月

土佐土佐守
鶴澤探龍

「（第七紙裏）

當付 同人

三分（朱筆）

三分（朱筆）

三分（朱筆）

三分（朱筆）

三分（朱筆）

「（第五紙裏）

三之御間

和 四季耕作

白張薄彩色

狩野故左近

文政度 同人

當付 正纓

式分（朱筆）

式分（朱筆）

式分（朱筆）

式分（朱筆）

壹分五里（朱筆）

「（第六紙裏）

北側遣戸四枚

四分

三分

南御掾座敷之杉戸

中彩色

西面 陵王納曾利

七分

五分

土佐豊前介

東面 源氏垣二竹

四分

三分

文政度 同人

當付 同人伊勢守

西御掾座敷杉戸

同

東面 瀧上紅葉

七分

五分

狩野故因幡目

東面 芦田鶴

四分

三分

文政度 同人

當付 倅 越前目

「（第七紙表）

二二五、女御里御殿御絵繕御用控 嘉永元年（一八四八）

嘉永元年三月 （朱文円印） 土佐

女御里御殿御絵繕分通り 「（第一紙表）

上段之御間 錦花鳥 砂子中彩色

土佐故伯耆守
文政度 倅 左近将監
當付 同人事三河守

御床張付 繪四分 三分 式分（朱筆）
箔五四・五分 式分五（朱筆）
三分（朱筆）

御違棚同 繪四分 三分 式分（朱筆）
箔五四・五分 三分（朱筆）

北側御襖四枚 繪四分 三分 式分（朱筆）
箔四分 三分五（朱筆）

西側御襖四枚 繪四分 三分 式分（朱筆）
箔四分 三分五（朱筆） 「（第二紙表）

東側御遣戸四枚 繪四分 三分 式分（朱筆）
箔四分 三分五（朱筆）

上四枚下四枚 繪三分 御手入なし
箔四分

御小襖 繕様同断 「（第二紙裏）

二之御間 子日 白張薄彩色 土佐土佐守

文政度 同人
當付 同人

東側襖四枚 五分 四分 式分（朱筆）

北側同四枚 六分 四分 式分（朱筆）

西側同四枚 五分 四分 式分（朱筆） 「（第三紙表）

南側遣戸四枚 五分 四分 式分（朱筆）

三之御間 鷹狩 白張薄彩色
土佐左近将監
文政度 同人
當付 同人事三河守

東側襖四枚 五分 四分 式分（朱筆） 「（第三紙裏）

北側襖四枚 六分 四分 式分（朱筆）

西側遣戸四枚 五分 四分 式分（朱筆）

南側遣戸四枚 四分 四分 式分（朱筆） 「（第四紙表）

北側 奈良八景 白張薄彩色 鶴澤故探春
文政度 同人
當付 倅 探龍

一之御間 南側襖四枚 五分 惣四分 式分（朱筆）

同張付一枚 七分 同 式分（朱筆）

西側襖四枚 六分 同 式分（朱筆）

北側遣戸四枚 五分 同 式分（朱筆）

東側遣戸四枚 四分 同 式分（朱筆） 「（第四紙裏）

同 六所玉川 白張薄彩色 狩野縫殿介
文政度 同人縫殿介

二之御間

繪様 梅柳 岡嶌清曠

東廂北之方杉戸 中彩色

繪様 北面 車胤 泉春園

南面 孫康

春宮御殿御不用之杉戸此處ニ御用ニ相成候也(朱筆)

北廂北之當り杉戸 中彩色

此坪壹坪八分五毛

御絵料

銀六百七拾四匁七分九毛

繪様 南面 茶山花犬

北面 小松原(ミセケン)・長澤・芦鳳・望月玉泉

銀六百七拾四匁七分九毛

北廂中程之杉戸 中彩色

繪様 東面 雪中炭竈 吉村孝一

西面 競馬

春宮御殿御不用之杉戸此處え御用ニ相成候也(朱筆)

「(第十一紙裏)

南廂東方之杉戸 中彩色

繪様 東面 谷川虎 星野蟬水

西面 雪洞熊

春宮御殿御不用之杉戸此處え御用ニ相成候也(朱筆)

同 西之方杉戸 中彩色

此坪壹坪八分五毛

御絵料銀六百七拾四匁

七分九毛

繪様 東面 網代景 森義章

西面 竹鶴

「(第十一紙裏)

御黒戸并下御小襖四枚 白張極彩色

此坪拾坪壹分七厘 御絵料 七貫六百目

壹坪二付六百目

繪様 蓮紅白 木村了琢

「(第十二紙表)

註

* 1 古今和歌集「国歌大観」一九

* 2 古今和歌集「国歌大観」一四二 紀友則

* 3 古今和歌集「国歌大観」二三三 凡河内躬恒

* 4 古今和歌集「国歌大観」三三三 紀貫之

* 5 古今和歌集「国歌大観」三六四 典侍藤原よるかの朝臣

* 6 後撰和歌集「国歌大観」一一七

ただし「みえける哉」は「みえまがひつ」とあり

* 7 後撰和歌集「国歌大観」一六六 大春日師範

* 8 後撰和歌集「国歌大観」三三五 藤原雅正

* 9 後撰和歌集「国歌大観」四九〇

* 10 拾遺和歌集「国歌大観」六八 源順

* 11 拾遺和歌集「国歌大観」一三一 惠慶法師

* 12 拾遺和歌集「国歌大観」一八八 曾弥好忠

* 13 拾遺和歌集「国歌大観」二二四 紀貫之

* 14 拾遺和歌集「国歌大観」一一六六 清原元輔

ただし「すたてらすへく」は「すたてらすへき」とあり

繪様 和 耕作 狩野内記

「(第八紙裏)

同御小座敷

二之御間 泥引中彩色 九帖

26

此坪九坪壹里五毛

御絵料銀四貫五百九拾七匁

六分五厘

繪様 草花小鳥 塩川文麟

同御火燵ノ間 砂子中彩色

十帖

27

此坪式坪三分六厘

御絵料銀壹貳百目

三分六厘

繪様 太宗弘文 土佐備前守

開館

春宮御殿御不用相成候御襖之内十二枚御用ニ相成不足之分

東側御襖一間半二枚并間中御張付一枚書足シ被仰付候也 (朱筆)

「(第九紙表)

御居間

上之御間 砂子中彩色 八帖

此坪

六坪七分九毛 御絵料

銀四貫六百九拾三匁式厘

28

御床違棚張付共

29

此坪

三坪壹分

貳り三毛

此御絵料銀七百貳拾目

式口合ノ銀五貫四百拾三匁式り

繪様 四季海辺 原在照

同御違棚上御小襖八枚 絹地泥引

極彩色

繪様 上襖 山家 右同人

下襖 田家

「(第九紙裏)

同 二之御間 砂子中彩色 十帖

此坪九坪貳分三厘七毛

御絵料銀四貫七百拾匁八厘

七毛

繪様 大井川鷓鴣飼 中嶋華陽

申之口拾七帖半之御間

白張薄彩色

十七帖半

壹坪二付四百八拾四匁五分

此坪八坪七分三厘壹毛

御絵料銀四貫貳百

三拾匁壹分六厘

「(第十紙表)

繪様 竹群雀 岸恭

申之口二拾帖之御間 白張薄彩色

此坪八坪壹分七厘九毛

御絵料銀三貫九百六匁七厘七分式り五毛

33

32

31

30

同 御下段 雲取砂子中彩色

十五帖

此坪拾壹坪壹分七里四毛
御絵料五貫六百九拾八匁
七分四里

16

同上 二枚

21 (第七紙裏)

松か枝のかよへるえたをとくらにてすたてらすへく鶴の雛哉 *14
栄たる松の小枝に鶴乃すこもる所

飛て行さるもあり

右 鶴澤探真

21 (第八紙表)

東之方御襖四枚

和歌意 拾遺集

春ふかミいての川なミ立かへりみてこそゆかめ山振乃はな *10

井出の川山ふきのさかり躰

宮人ミるところ

17 (第六紙裏)

南之方遣戸四枚

松かけの岩井の水をむすひ上て夏なき年と思ひけるかな *11

松かけの岩井乃水を人のくミ

あくるところ

18

西之方御襖四枚

神南備乃ミむろのことをけふミれハ下草かけて色附にけり *12

19 (第七紙表)

ミ室の山なへて紅葉そむるところ

北之方御襖二枚 御張付共

20

繪様 群鹿 國井應文

同御寝間 砂子中彩色

此坪拾貳坪五分八毛

御絵料六貫三百七拾九匁八里

十二帖半

25

おもひかねいもかりゆけは冬のよの川風寒ミ千鳥なく也 *13
月はるゝ冬川に千鳥なく堤の
みちを狩衣きたる人の行所

同御小座敷

上乃御間 泥引中彩色 六帖

22

新調之分五坪八分三毛

御絵料貳貫九百五拾九匁

五分三毛

泥引書之分三坪九分八里八毛

御絵料

壹坪二付五拾四匁

銀貳百拾五匁三分五里貳毛

23

三口合

三貫三百五拾四匁

八分八厘貳毛

御小襖貳枚極彩色

24

壹枚二付九拾目此御絵料百八拾目

ミやまに雪のこる京かすかにありて
野へに人々わかなつむところ

「(第二紙裏)

同御中段 雲取砂子中彩色

十二帖半

11

東之方南々方遣戸四枚

音羽山けさこへくれハ郭公こすへはるかに今そなくなる

* 2

7

音羽山を人のこゆる躰梢の空に

ほとゝきす鳴ところ

東之方御襖四枚

和歌意 後撰集

此坪拾坪四分五り六毛
御絵料
銀五貫三百三式匁五分六り

12

西之方御襖二枚南之方遣戸二枚

妻こふる鹿を鳴なる女郎花をのかすむ野の花としらすや

* 3

8

をミなへしのおまた咲野に
鹿の鳴少し秋草もましる

五月雨に春の宮人來るときはほとゝきすをや鶯にせむ

* 7

13

西之方御襖二枚

雪ふれは冬こもりせる草も木も春にしられぬ花ぞ咲ける

* 4

9

冬枯の草木にうるはしく

ハのことく雪のつもとるころ

「(第三紙裏)

14「(第五紙裏)

御袋棚 絹地泥引砂子極彩色

小襖上四枚

10

老枚二付九拾目此御絵料
銀五百四拾目

一五

峯たかきかすかの山に出る日ハくもる時なくてらすへら也

* 5

春日山にあさ日のいてたるところ

北之方御襖四枚
冬の池の水になかるゝあし鴨乃うきねなからに幾世へぬらん
いく水すさましくして鴨乃うかふところ
きしねにかれ芦なともあり

「(第六紙表)

同 下二枚

右 土佐土佐介

「(第四紙表)

右 土佐左近衛將監

同

墨繪仕立

一同式枚折

竹鶴

竹龜

六尺

壹雙
(此紙)
木村梁舟
(貼紙下墨書)了

19

右仕越出来之分

「(第十一紙表)

二二四 准后御殿御間繪様控 慶応三年(一八六七)

慶應三丁卯十一月四日

准后御新殿御造立

宮御殿

常御殿

御間御繪様控

畫所預 (朱文田印) 土佐

「(第一紙表)

准后宮御殿

上之御間 中彩色砂子 拾帖

壹坪二付銀五百拾匁

此坪九坪〇〇九毛御繪料

銀四貫五百九拾四匁五分九リ

繪様 子日 土佐備前守

同

中之御間 中彩色砂子

2

繪様 虫撰

圓山應立

「(第一紙表)

此坪九坪貳分〇九毛御繪料
銀四貫六百六匁五分九リ

同

下之御間 中彩色砂子

此坪九坪〇〇九毛御繪料
銀四貫五百九拾四匁五分九里

繪様 鷹狩

岡本亮彦

同

北廂杉戸 中彩色

壹坪二付銀四百八拾四匁五分

此坪壹坪八分壹里八毛

御繪料銀六百七拾九匁

五分六リ八毛

鈴木百年

繪様 東面菖蒲鷺
西面柿猿

常御殿御上段 雲取砂子中彩色
十二帖半

此坪拾貳坪七分八里六毛

御繪料

銀六貫五百貳拾匁

八分六里

東之方遣戸二枚御床

和歌意 古今集

深山には松の雪たにきえなくに都ハのへ乃若菜つみ鳧 *1

6

5

4

3

18

内壹雙	(貼紙墨書) 中嶋有章	6 3
四季花鳥	(貼紙下墨書) 鶴澤芹鳳	
同	六尺	
一同貳枚折	三雙	(第四紙裏)
同壹雙	鈴木百僊	7 1
山吹蛙		
月薄		
同壹雙	梅戸在親	7 2
須磨浦月		
佐野渡雪	(第四紙裏)	
内壹雙	菱田日東	7 3
梅柳鶯		
菊雁		
惣上仕立		
一金大御衝立	金尺高サ四尺五寸	
	巾三尺壹寸	壹
	太平楽桜あしらい	8
	陪臚橘あしらい	(第五紙表)
右仕越御出来の分		
	(第五紙裏)	
惣金仕立	六尺	
一金御屏風六枚折	壹雙	9
惣上中仕立		
同	鯨尺貳尺貳寸	(第六紙表)
内壹雙	志賀山越春景	
	大井川紅葉景	
内壹雙	草花小鳥	
惣金仕立	金尺六尺貳寸	
一同貳枚折	貳雙	
内壹雙	岸九岳	11 1
桜雉		
萩猪		
内壹雙	岡村雪蓬	11 2
	御柳花菖蒲水鶏	(第七紙表)
	早梅水鳥	
惣中仕立	鯨尺四尺五寸	
一同貳枚折	貳雙	
内壹雙	長野梁溪	12 1

二三、准后御殿新調屏風治定帳 慶応三年（一八六七）（二九四）

准后様御殿

慶応三年丁卯十月

新調御屏風御繪御治定帳

畫所預

土佐家（朱文円印）土佐

「（第一紙表）

新調御屏風御繪御治定

惣上仕立

一金御屏風六枚折

六尺

貳雙

同 壹雙

（貼紙墨書）鶴澤探真
（貼紙下墨書）狩野内記

1 1

和歌の浦に塩みちくればかたをなみ
あしへをさしてたつ鳴わたる

「（第二紙表）

同壹雙

右同和歌の意

塩川文麟

1 2

惣上仕立

鯨尺式尺七寸

一同

子日

土佐備前守

2

虫撰

「（第二紙裏）

惣上仕立

鯨尺三尺

一同

みをつくしの巻

原在照

3

住よしまふての所

朝かほのまき
雪まろハセ乃所

惣並仕立

鯨尺四尺五寸

一金式枚折

壹雙

草花虫

青木中務（付箋墨書）當御殿御内

4 「（第三紙表）

薄彩色金砂子雲取仕立

鯨尺四尺五寸

一御小屏風六枚折

三雙

同壹雙

原在照

5 1

春野馬

秋野鹿

「（第三紙裏）

同壹雙

中嶋華陽

5 2

耕作

同壹雙

國井應文

5 3

難波の浦網引所

塩かまの浦乃景

「（第四紙表）

薄彩色金砂子雲取仕立 六尺

一御屏風六枚折

三雙

内壹雙

鈴木百年

6 1

深山猿

雪中熊

内壹雙

原在泉

6 2

草木群獸

六枚折御屏風一双	御繪	巖二藤熊 萩原臥猪	望月玉泉	96	六枚折御屏風一双	御繪	春草雲雀 栗二鶉	内海元紀 「(第十九紙裏)」	103
白張中彩色鴨居下					八枚折御屏風一双	御繪	江之嶺富士 田蓑鳶鶴	鈴木百仙	104
六枚折御屏風一双	御繪	桃柳交枝 草花色々	小嶋彫齋 「(第十八紙裏)」	97	白張中彩色				
白張中彩色鴨居下					思召有之候二付御用被差止				
六枚折御屏風一双	御繪	躑躅小鳥 菊二蝶	仲邑中岳	98	白張鴨居下墨画		樵父 漁父	泉春園 改林耕雲	105
白張鴨居下(隅)墨画					六枚折御屏風一双	御繪			
六枚折御屏風一双	御繪	柳二鶯 楓雀	寫田房直	99	十月十日被 仰付				
白張鴨居下墨画					白張鴨居下中彩色				
六枚折御屏風一双	御繪	松嶋 天橋立	幸野梅嶺 「(第十九紙表)」	100	六枚折御屏風壹双	御繪	春秋 花鳥	岡嶋清曠 「(第二十紙表)」	106
白張鴨居下墨画					同				
六枚折御屏風一双	御繪	葡萄栗鼠 枇杷山鳩	淵田蘭薫	101	白張鴨居下中彩色				
白張中彩色					六枚折御屏風一双	御繪	和人 蚕作	鈴木百年	107
六枚折御屏風一双	御繪	松二桜 竹二楓	座田重慶	102	同				
白張中彩色鴨居下					白張鴨居下中彩色				
六枚折御屏風一双	御繪				六枚折御屏風一双	御繪	宇治川春景 淀川秋景	羽田月洲 「(第二十紙裏)」	108

白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	夏山水	金田有山	82	白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	淀川風景	岡本元彦	89
白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	冬山水	┌ (第十六紙表)		白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	貴布川景		
白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	海辺蛭磯屋	蒲生鳩峯	83	白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	波二千鳥	勝山琢如	90
白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	蛭綱引			白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	苳蕉犬子		
金中仕立鴨居下	二枚折御屏風一双	御繪	四季	高松圭隣	84	白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	木賊兔	森春岳	91
金中仕立鴨居下	六枚折御屏風一双	御繪	釣花生			白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪		┌ (第十七紙裏)	
金中仕立鴨居下	六枚折御屏風一双	御繪	此分御模様替り			白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	春日野	山口東山	92
金中仕立鴨居下	六枚折御屏風一双	御繪	春木花鳥			白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	須磨浦月		
金中仕立鴨居下	六枚折御屏風一双	御繪	秋草花鳥			白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪			
金中仕立鴨居下	六枚折御屏風一双	御繪	紫陽花百合	川勝秀好	85	白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	立鴨	高山雪堂	93
金中仕立鴨居下	六枚折御屏風一双	御繪	葉鶏頭槿	┌ (第十六紙裏)		白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	浮鷺		
白張鴨居下墨画	二枚折御屏風一双	御繪	雪中松	佐々木畔榮	86	金中仕立鴨居下	二枚折御屏風一双	御繪	催馬楽意		
白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	雪中松			金中仕立鴨居下	二枚折御屏風一双	御繪	桜人	速水基益	94
白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	雪中松	羽田月洲	87	金中仕立鴨居下	六枚折御屏風一双	御繪	更衣	┌ (第十八紙表)	
白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	白藤小鳥	中井分弼	88	金中仕立鴨居下	六枚折御屏風一双	御繪	竹鷄	石田有年	95
白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	山吹花小鳥	┌ (第十七紙表)		金中仕立鴨居下	六枚折御屏風一双	御繪	菊鷄		

白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 箕田玉簫 ㄣ (第十三紙裏) 67	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 68	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 69	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 70	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 71	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 72	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 73	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 74
白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 75	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 76	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 77	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 78	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 79	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 80	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 81	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 82
白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 83	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 84	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 85	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 86	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 87	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 88	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 89	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 90
白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 91	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 92	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 93	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 94	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 95	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 96	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 97	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 98
白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 99	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 100	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 101	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 102	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 103	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 104	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 105	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群飛鷺 106

白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 群馬 林蘭臺 53	金中仕立 六枚折御屏風一双 御繪 八ッ橋 宇都ノ山 竹邑大鵬 54	金中仕立 六枚折御屏風一双 御繪 芳野 立田 田中有美 ㄣ (第十紙裏) 55	絹地砂子 内法竪一尺一寸式分 横一尺三寸式分五リン 大袋臺子袋戸棚 四枚 御繪四季花鳥 春桜二鶯 夏河原瞿夏鴻 海北友樵 56	白張鴨居隔墨画 六枚折御屏風一双 御繪 田植 田蒨 多村秀文 57	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 御模様替山水 鶺鴒舟 芦分舟 ㄣ (第十一紙表) 58	白張鴨居下墨画 二枚折御屏風一双 御繪 松二鷺 長野祐忠 59
--	---	--	--	---	--	--

岩二波 白張鴨居隔墨画 六枚折御屏風一双 御繪 淡路嶋 志賀浦 長野祐親 60	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 舞鶴 立鶴 吉田元靚 ㄣ (第十二紙裏) 61	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 吹上濱 鳴尾浦 狩野文信 62	白張鴨居下墨画 二枚折御屏風一双 御繪 波に兎 月二猿猴 狩野季信 63	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 杣山川筏 浦塩竈 長澤芦舟 ㄣ (第十三紙表) 64	白張鴨居下墨画 六枚折御屏風一双 御繪 桜豆鳥 紅葉山雀 了 木村梁舟 65	白張鴨居隔墨画 六枚折御屏風一双 御繪 芦雁 箕田霞峯 66
--	--	---	--	---	---	---

六枚折御屏風一双	御繪	宇治茶摘 玉川布晒	同人	39	白張中彩色鴨居下 二枚折御屏風一双	御繪	若楓鮎 秋草とんほ	梅戸在延	46
金上仕立鴨居下					御硯文臺 蒔繪	御下繪			
六枚折御屏風一双	御繪	虎子渡 獅々子落	岸竹堂	40	御水入	同断	吹上濱	同人	47
白張中彩色鴨居下					吹上菊				48
六枚折御屏風一双	御繪	竹虎 松鷹	同人	41	金中仕立鴨居下 六枚折御屏風一双	御繪	年中行事	松田祐之	49
白張中彩色鴨居下									
六枚折御屏風一双	御繪	山水	岸九岳	42	金上仕立鴨居下 六枚折御屏風一双	御繪	新樹青梅 あやめ鳥 ひはさゝん花 寒菊いどころ	鈴木百年	50
白張中彩色鴨居下									
六枚折御屏風一双	御繪	波二鶴 波二鳥	岡本亮彦	43					
金上仕立鴨居隅									
六枚折御屏風一双	御繪	海棠孔雀 松二錦鶏	森真愛	44	二枚折御腰屏風一双	御繪	梅二はゝ鳥 若竹二ほたる	林蘭雅	51
御書棚					金上仕立冬				
蒔繪御下繪桜雉子	上袋棚春草小鳥 下袋棚小松原 駒遊		同人	45	白張中彩色鴨居下 六枚折御屏風一双	御繪	牡丹蝶 芙蓉雀	同人	52

「(第九紙表)

「(第十紙表)

六枚折御屏風一双 御繪 四季四町

森應章

「(第十六紙裏)

はこふ所

「(第七紙表)

金中仕立鴨居下

六枚折御屏風一双 御繪

遅桜しつ家
垣ねの卯花郭公

梅戸在親

28

金中仕立四尺

六枚折御屏風一双 御繪

競馬の所

星野蟬水

34

月雁野辺の

萩下二も残る友あり

金上仕立鴨居下
二枚折御屏風一双 御繪

松ノ白藤つゝし
樗橋小禽

嶋田雅喬

35

金中仕立鴨居下

六枚折御屏風一双 御繪

嵐山彩樹

森義章

29

金中仕立鴨居下
二枚折御屏風一双 御繪

御柳河原撫子鮎
冬至梅水鳥

中嶋華陽

「(第七紙裏)

白張鴨居下画

六枚折御屏風一双 御繪

雨中山水
雨後山水

同人

30

所勞二付
御断旨

御伺濟

金上仕立冬

二枚折御腰屏風一双 御繪

芽出柳

岸丹波介

37

金中仕立鴨居下

六枚折御屏風一双 御繪

須磨 景
明石

多村舉秀

31

鶯春艸
かれ芦二雁

改 岡嶋清曠

金上仕立惣高四尺
巾三尺三寸

大衝立一基

御繪 手籠くさ物

原在泉

38

金中仕立五尺

六枚折御屏風一双 御繪

松虎
檜手長猿

岸恭

32

野菜
富士鷹一羽

金中仕立鴨居下

六枚折御屏風一双 御繪

海辺の松塩かま
あまのもしほ木

岡村雪蓬

33

白張鴨居隅墨画

茄子三ツ

六枚折御屏風一双	御繪	橋辨慶	弓流シ	同人	13	高サ一尺五分	中引出シ一ツ 左引出シ二ツ	
白張鴨居下墨画								
六枚折御屏風一双	御繪	深山景	大沢景	同人	14	金上仕立鴨居下 六枚折御屏風一双	御繪	秋草木鹿 雪中木熊
金上仕立鴨居下								山本桃谷 ┌ (第五紙裏)
六枚折御屏風一双	御繪	小鷹狩		吉村孝一 ┌ (第四紙表)	15	金上仕立鴨居下 六枚折御屏風一双	御繪	和歌浦二田鶴鳴 わたる芦辺に残る 友もあり
白張鴨居下墨画								
六枚折御屏風一双	御繪	雪中水鳥 雪中炭竈		同人	16	金上仕立鴨居下 六枚折御屏風一双	御繪	逢坂の関 駒むかい
金上仕立鴨居下								塩川文麟
六枚折御屏風一双	御繪	四季耕作		國井應文	17	金中仕立鴨居下 六枚折御屏風一双	御繪	嵐山大瀬ノ景 宇治獅々飛景
金上仕立夏								同人 ┌ (第五紙裏)
二枚折御腰屏風一双	御繪	朝顔かまきり 萩に松虫鈴むし		同人 ┌ (第四紙裏)	18	金上仕立鴨居下 六枚折御屏風一双	御繪	花鳥馬 桃林牛
白張鴨居下墨画								長澤芹鳳
六枚折御屏風一双	御繪	曙梅 夜梅		同人	19	白張中彩色鴨居下 六枚折御屏風一双	御繪	春野雲雀 秋岡鹿
大御机御時繪下	六所玉川							同人
但シ長サ三尺九寸巾一尺六寸五分	右引出シ三ツ			同人	20	金上仕立五尺		改 八木奇峯
								26
								25
								24
								23
								22
								21

二二二・新調道具御用絵様姓名控 慶応三年（一八六七）

慶応三年丁卯八月

新調御道具御繪御用

御繪様并姓名控帳

土佐
鶴澤

「（第一紙表）

金上仕立鴨居隅	六枚折御屏風一双	御繪	夕顔	土佐備前守光文	1
金上仕立四尺	六枚折御屏風一双	御繪	乙女		
金上仕立鴨居隅	六枚折御屏風一双	御繪	源氏	土佐備前守光文	1
金上仕立鴨居隅	六枚折御屏風一双	御繪	小蝶卷龍頭けき舟の所	土佐備前守光文	1
金上仕立鴨居隅	六枚折御屏風一双	御繪	朝顔卷わらわへおろして	土佐備前守光文	1
金上仕立鴨居隅	六枚折御屏風一双	御繪	雪まろはせさせ給ふ所	土佐備前守光文	1
金上仕立鴨居隅	六枚折御屏風一双	御繪	桜狩出立	土佐備前守光文	1
金上仕立鴨居隅	六枚折御屏風一双	御繪	紅葉狩帰路	土佐備前守光文	1
金上仕立三尺五寸	六枚折御屏風一双	御繪	糸桜鶏	土佐備前守光文	1
金上仕立鴨居隅	六枚折御屏風一双	御繪	垣菊兎	土佐備前守光文	1
金上仕立四尺二間縁	六枚折御屏風一双	御繪	舞楽	土佐備前守光文	1
金中仕立鴨居下				土佐備前守光文	1

二枚折御屏風一双 御繪

若菜摘

同人

虫撰

「（第二紙裏）

金上仕立鴨居下	六枚折御屏風一双	御繪	四季草花群鳥	土佐左近衛将監光章	7
金上仕立鴨居下	六枚折御屏風一双	御繪	四季木花群鳥	土佐左近衛将監光章	7
金上仕立 惣高四尺八寸	中三尺八寸五分	掾共			
大御衝立一基	御繪	片面還城楽童舞	同人		
金上仕立二間掾 四尺	六枚折御屏風一双	御繪	十二月花鳥	圓山應立	9
金上仕立夏	二枚折御屏風一双	御繪	川柳水二鯉	同人	10
白張鴨居下墨画	六枚折御屏風一双	御繪	水二河ほね	同人	11
金上仕立鴨居隅	六枚折御屏風一双	御繪	曲水宴	原在照	12
金上仕立鴨居下				「（第三紙裏）	

表－１（Ｂ）

土佐 光章	7, 8 土佐左近将監	8 土佐左近将監	11, 12, 13, 14, 15 土佐左近将監	○			1848	1875	土佐派
土佐 光武	5, 6 土佐土佐介	10-1 土佐土佐介	5, 6, 7, 8, 9, 10 土佐土佐介		○	○	1848	1916	土佐派
土佐 光文	1, 2 土佐備前守	2 土佐備前守	1, 27 土佐備前守	○	○	○	1813	1875	土佐派
中島 有章	22	6-3			○	○	1837	1905	円山派
中井 分弼	88								
長沢 芦舟	64					○			円山派
長沢 芦鳳	25			○	○	○	1804	1871	円山派
永島 鴨洲	70								
中島 華陽	36	5-2	31	○	○	○	1813	1877	岸派
長野 梁溪	60長野祐親	12-1					1817	1882	狩野派
長野 祐忠	59								狩野派
仲村 中岳	98仲邑中岳								
羽田 月洲	87, 108						1841	?	望月派
林 耕雲	105			○	○		?	1880	四条派
林 蘭雅	51, 52			○	○	○	1821	1869	四条派
林 蘭台	53								
速水 基益	94								
原 在照	12, 13, 14	3, 5-1	28, 29, 30	○	○	○	1813	1871	原派
原 在泉	38, 39	6-2					1849	1916	原派
菱田 来成	75菱田日東	7-3菱田日東		○		○	1816	1873	四条派
伏屋 美山		17伏屋頼母							四条派
淵田 蘭薫	101								四条派
星野 蟬水	34	13-3	37△				1834	02	文晁派
前川 五嶺	71				○		1805	76	四条派
前川 文嶺	72				○		1837	17	四条派
松田 祐之	49	13-2							
円山 応立	9, 10, 11	10-2	2	○	○	○	1817	75	円山派
箕田 霞峰	66			○					
箕田 玉簫	67								
村井 中務		18							
望月 玉泉	96	35				○	1834	1913	望月派
森 応章	27								
森 義章	29, 30	38		○	○	○	1802	1873	四条派
森 春岳	91								岸派
森 直愛	44, 45	12-2							
八木 雲溪	69						1842	1892	四条派
八木 奇峰	26			○	○	○	1804	1876	四条派
山口 東山	92								
山本 桃谷	21						1834	1890	円山派
吉坂 鷹峰	81			○	○		1809	1880	円山派
吉田 元親	61								
吉田 順祥	58			○			1789	?	四条派
吉田 百山	80								
吉村 孝一	15, 16		36△		○	○	1818	1874	円山派

凡例 ○ 「新調道具御用絵様姓名控」「准后御殿新調野風治定帳」「准后御殿御間絵様控」に記載された絵師の一覧である。
 ○ 記載あるものには、細刻に付与した通し番号を記している。△のあるものは作品転用により名が記載された者である。
 ○ 絵師名は通りのよいものを用いており、資料の記事と異なる場合、その表記を併記した。また流派に関する者や生歿年が分かる者はなるべくこれを記した。
 ○ 嘉永五年版・慶応三年版の『平安人物志』（『近世人名録集成』収）に記載された絵師、及び安政度内裏造宮に関つた絵師（「安政二卯年新内裏御造宮御絵様記録」）についてはこれを示した

表-1 (A)

名前	新調道具御用 絵様姓名控	准后御殿新調 屏風治定帳	准后御殿御間 絵様控	嘉永5年 〔平人志〕	慶應3年 〔平人志〕	応安物 〔平人志〕	安政御録 〔平人志〕	二内宮記 〔平人志〕	生年	没年	備考
青木 中務		4									
石田 有年	95										
泉 春園			34△	○	○						岸派
内海 元紀	103								1812	1887	四条派文晁派
梅戸 在勤	68								1844	1919	原派
梅戸 在親	28	7-2		○	○		○		1795	1883	原派
梅戸 在延	46, 47, 48								1839	1923	原原派
大橋 海石	78										
岡島 清曠	37, 77, 106		33		○				1823	1877	四条派
岡村 雪蓬	33	11-2									岡村雪峰か?
岡本 亮彦	43		3	○	○		○		1823	1883	四条派
岡本 元彦	89										四条派
海北 友樵	56			○	○		○		1815	1868	海北派
勝山 琢如	90			○	○		○				勝山派
金田 有山	82										
狩野 永朝		9, 14狩野内記	25狩野内記	○					1831	1900	狩野派
狩野 季信	63										狩野派
狩野 文信	62						○				狩野派
蒲生 鳩峰	83				○						円山派
川勝 秀好	85										
岸 恭 32	15岸雅楽助	32					○		1829	1874	岸派
岸 九岳	42	11-1							1845/52	1921	岸派
岸 竹堂	40, 41 16			○	○				1826	1897	岸派
木村 梁舟	65木村了舟	19		○	○		○	?		1875	狩野派
木村 了琢		39					○				
国井 応文	17, 18, 19, 20	5-3	22, 23, 24				○		1833	1887	円山派
幸野 楳嶺	100幸野梅嶺										円山派四条派
座田 重慶	102										鶴沢派?
佐々木藍水	86佐々木耕栄			○	○						勝山派
沢渡 精斎	73			○	○		○		1808/1	1885	四条派
沢渡 素軒	74沢渡広孝			○							四条派
塩川 文麟	23, 24	1-2	26	○	○		○		1808	1877	四条派
島田 房直	99										
島田 雅喬	35			○	○				1808	1881	円山派
鈴木 松年	104鈴木百仙	7-1鈴木百櫻							1848	1918	円山派
鈴木 百年	50, 107	6-1	4	○	○		○		1825	1891	円山派
高松 圭隣	84			○							
高山 雪堂	93										
竹村 大鳳	54竹邑大鵬								1813	1873	四条派
田中 巖村	79										
田中 有美	55								1838	1933	復古大和絵
多村 拳秀	31			○	○		○		1789	?	円山派
多村 秀文	57						○				円山派
鶴沢 探真	3, 4	1-1	16, 17, 18, 19, 20, 21				○				鶴沢派
徳美 在寿	76										

二之御間 白張薄彩色 子日

土佐光孚／文政度補修 土佐光孚／嘉永度補修 土佐光孚

三之御間 白張薄彩色 鷹狩

土佐光祿／文政度補修 土佐光祿／嘉永度補修 土佐光祿

北側一之御間 白張薄彩色 奈良八景

鶴沢探春／文政度補修 鶴沢探春／嘉永度補修 鶴沢探龍

北側二之御間 白張薄彩色 六所玉川

狩野永岳／文政度補修 狩野永岳／嘉永度補修 狩野永岳

北側三之御間 白張薄彩色 和 四季耕作

狩野正英／文政度補修 狩野正英／嘉永度補修 狩野正纓

南御掾座敷之杉戸 中彩色 西面 陵王納曾利／東面 源氏垣二竹

土佐光清／文政度補修 土佐光清／嘉永度補修 土佐光清

西御掾座敷杉戸 中彩色 東面 瀧上紅葉／東面 芦田鶴

狩野因幡目／文政度補修 狩野因幡目／嘉永度補修 狩野文信

御居間	上之御間	四季海辺	原	在照
	同小襖	上 山家／下 田家	同	
	二之御間	大井川鶴飼	中島華陽	
	申之口十七帖半之間	竹群雀	岸恭	
	申之口二拾帖之間	梅柳	岡島清曠	
東廂北杉戸	北面	車胤／南面 孫康	泉 春園	*
北廂北杉戸	南面	茶山花犬／北面 小松原	望月玉泉	
北廂中杉戸	東面	雪中炭竈／西面 競馬	吉村孝一	*
南廂東杉戸	東面	谷川虎／西面 雪洞熊	星野蟬水	*
南廂西杉戸	東面	網代景／西面 竹鶴	森 義章	

御黒戸

蓮紅白

木村了琢

二二五 女御里御殿御絵繪繕御用控 嘉永元年（一八四八）（旧目録二九七）

二四・一×一六・九 cm

慶応二年に崩御した孝明天皇の皇后九条夙子、後の英照皇太后（一八三三〜九七）の里御殿襖絵の補修に関する見積もりの控である。楮紙七紙をこより二本で袋綴じにしている。奥書に土佐光孚と鶴沢探龍の名が記されている。嘉永元年（一八四八）時、土佐家には、本家に光禄・光文が、分家に光孚・光清が活動しており、分家ではあったが年長の光孚が主導的立場にあったわけである。

九条夙子は九条尚忠（一七九八〜一八七二）の六女であり、里御殿とは九条家をさすことになる。孝明天皇の即位が弘化四年（一八四七）九月に行われ、女御となった夙子が准后を宣下されたのは嘉永六年（一八五三）五月であるため、ここでは女御とのみ記しているのだろう。この補修が女

御の里帰りの準備であったのか、単なる襖絵の補修であったのかは定かではない。父尚忠は嘉永元年の時左大臣にあったが、後に関白内覧となるなど天皇を輔弼する重要な位置を占めていた人物である。

御殿襖絵は土佐派・狩野派・鶴沢派によって描かれ、土佐光時が伯耆守の時期で、なおかつ文化年中に描かれたと考えられるので、文化十〜十五年の間に造営は行われたのであろう。その後光清が豊前介であった文政十一年までに一度補修を受けており、嘉永元年の再補修に至ったらしい。土佐家と鶴沢家が主要な部屋を占めて、安政度内裏造営と同じ傾向をみせるが、画を愛好した尚忠の家来の立場にあった狩野永岳ですら、土佐家や鶴沢家の風下におかれている点に、御所周辺での絵所家という存在の意味がうかがえる。

書付けに見る数値の解釈についてはよく分からない。数値は概ね三段に記され、上二段は墨書、下一段は朱筆であり、下の段の方が数値が小さくなる傾向にある。通例襖絵は、仕様に従った単価に、面積を掛け合わせた金額によって画料が支払われたが、この場合は面積比の形で、補修の程度を示そうとしたのかもしれない。上段の数字が実際に修理の対象となる分量を示し、下段がそれに対する見積もりということであろうか。奥書によれば、この見積もりは最終的なものではなく、煤出しすなわち清掃の上状況を考慮して決定するということから、この推測に従うかぎり、朱筆の文字は、最終的に契約された額、もしくは支払われた金額を示すことになるだろう。幕末期の資料とはいえ、近世絵所の活動の実際を示す資料といえる。

女御里御殿襖絵杉戸絵一覽

上段之御間

砂子中彩色

錦花鳥

土佐光時／文政度補修 土佐光禄／嘉永度補修 土佐光禄

応三年版『平安人物志』に見える絵師であり、各流派の代表的な絵師が参加している様子がわかる。安政度内裏造宮の場合と同じく、土佐派と鶴沢派が一応まとめ役となっていたようだが、土佐光文・光武および鶴沢探真はそれぞれ六曲屏風二双ずつ、光章は六曲屏風一双に衝立一基の揮毫にとどまっておき、実際には円山応立・岡島清曠・原在照・国井応文のように屏風三双を制作している者もあって、円山派・四条派・原派・岸派の絵師が大きな役割を果たしていた。

「准后御殿新調屏風治定帳」には、二曲屏風十双・六曲屏風十四双・六曲小屏風四双・簾屏風一双・小衝立一基・大衝立一基の制作が記されている。参加した絵師の総数は二九名、この内二十三名は八月の道具新調御用にも関る絵師である。慶応三年版『平安人物志』に見える絵師は十四名と半数に過ぎないが、土佐派、鶴沢派といった絵所絵師をはじめ、円山派・四条派・原派・岸派といった在京各派の代表的な絵師が名を連ねており、「新調道具御用絵様姓名控」と同じ傾向を見せる。

「准后御殿御間絵様控」を見ると、宮御殿と常御殿の襖絵及び杉戸絵制作に二十名の絵師の名が見える。この内三名は睦仁親王の践祚によって不必要になった春宮御殿（慶応二年模様替花御殿）から転用した杉戸絵の作者であるため実際の制作にあたったのは十七名となる。土佐派・鶴沢派が主導的立場となっているものの、狩野派・円山派・四条派・原派・岸派・望月派といった主要な流派が皆関与しており、さながら安政度内裏造宮の縮図を見えるような構成となっている。

また、この「准后御殿御間絵様控」には襖絵や杉戸絵の画料に関する記録もこまめに記され、単価×面積という襖絵の画料の計算方法に忠実に従っているのが分かる。単価は仕様によって定められており、画題による区別は見られない。一坪につき極彩色の場合銀六百匁、中彩色で銀五百十匁、薄彩色で銀四百八拾四匁五分となっている。絵師による格差は明確ではないが、襖絵より若干安価に定められた杉戸の場合に、同じ中彩色ながら鈴木百年が銀四百八拾四匁五分なのに対し、望月玉泉・森義章は三百七十三

匁八分と低く、仕様以外の基準が設けられていた可能性もある。

准后御殿の造宮により調度や襖絵の調製にあたった絵師の総数は三四名（目録には作品転用により他に二名の名が加わる）である。屏風と襖絵両方の制作をしたのはこのうち十二名であり、さらにその中の十一名は「新調道具御用絵様姓名控」にも登場している。その十一名とは、土佐派から土佐光文・光武・光章、鶴沢派から鶴沢探真、原派から原在照、岸派から岸恭・中島華陽、円山派から円山応立・鈴木百年・国井応文、四条派から塩川文麟という顔ぶれで、各流派への配慮がなされていることがわかる。三冊の冊子に記された絵師の総数は九十二名、うち一名は転用作品の作者と思われるので九一名が参加したことになる。この内二十七名は内裏調度調製と准后御殿造宮の両方に関る絵師で、彼らの内十八名が嘉永五年版または慶応三年版『平安人物志』に名に見える絵師である。その詳細は別に一覧にした（表1-A・B）。

准后御殿襖絵杉戸絵一覧（*は東宮御殿から転用したもの）

宮御殿		常御殿	
上之御間	子日	御上段	和歌意
中之御間	虫選	御中段	和歌意
下之御間	鷹狩	御下段	和歌意
北廂杉戸	東面 菖蒲鷺	御小座敷	拾遺和歌集五首
	西面 柿猿	上之御間	郡鹿
		二之御間	草花小鳥
		御寝間	和耕作
		御火燵之間	太宗弘文開館
			土佐光文

二二二、新調道具御用絵様姓名控 慶応三年（一八六七）（旧目録二九六）

二四・三×一六・三 cm

二二三、准后御殿新調屏風治定帳 慶応三年（一八六七）（旧目録二九四）

二四・二×一七・一 cm

二二四、准后御殿御間絵様控 慶応三年（一八六七）（旧目録二九五）

二四・五×一六・四 cm

「新調道具御用絵様姓名控」は「新調御道具御繪御用御繪様并姓名控帳」という表題が記されており、内裏の調度として制作された屏風の種類、画題、作者を目録としたもの。楮紙二十二紙をこより二本で袋綴じにしており、表紙には土佐と鶴沢の名が記されている。

「准后御殿新調屏風治定帳」は「准后様御殿新調御屏風御繪御治定帳」という表題が記され、楮紙十三紙をこより二本で袋綴じにし、背を紙で補強したものである。表紙に「畫所預土佐家」の墨書と「土佐」の円印がある。「准后御殿御間絵様控」は「准后御新殿御造立宮御殿常御殿御間御繪様控」という表題が記され、楮紙十二紙をこより二本で袋綴じにしたもの。表紙に「畫所預」の墨書と「土佐」の円印がある。この二冊は、慶応二年に崩御した孝明天皇の皇后九条夙子、後の英照皇太后（一八三三〜九七）の為に造立される准后御殿の調度および襖絵の仕様と絵師を記した目録である。

これら三冊の冊子は、御所の用途にあてられる屏風や襖絵の制作について土佐家で書き留めた記録のひとつといえるが、単に土佐家のみの記録にとどまらず、絵所を始めとする在京の絵師に対し、慶応三年（一八六七）八月、十月、十一月と相次いで命じられた絵画制作事業に関するものとして、寛政度及び安政度内裏造営の記録に類似する性格を持つ。この時、土佐家には本家に光文・光章、分家に光武がいたから、記録は光文の監督下に制作されたものと見てよい。

「新調道具御用絵様姓名控」に見える調度は、慶応二年十二月の孝明天

皇崩御により、翌年一月に践祚した睦仁親王すなわち後の明治天皇の周辺で用いるためのものであろう。この年政局は急展開をみせ、大政奉還を目前にして新帝の威儀を高める必要が、この大規模な事業を可能にしたと考えられる。あるいは、この種の事業が孝明帝在世中に計画されていた可能性もあるが、孝明天皇崩御による新帝の誕生が契機となったことは否定できない。

女御九条夙子が准后を宣下されたのは嘉永六年（一八五三）五月である。孝明帝在世にあつては准后御殿として女御御殿や飛香舎代が用いられていた。しかし、慶応三年九月に「今度准后御方新御殿御造立」のため築地周辺の火の用心をする旨の触れがだされており、女御御殿の改修とは考えにくく、准后御殿造営は孝明帝没後に発生した新事業と考えるのが妥当である。つまり、ここにいる准后御殿は安政度内裏造営時の准后御殿とは異なるものであり、これらの内裏調度調製及び御殿造営は、孝明天皇崩御の後、安政度の内裏造営とは異なる枠組みの中で進化したもの考えるべきだろう。

准后御殿がどこに造営されようとしたのか、また実際に落成をみたのか今のところ確認する資料を知らないが、京都における絵画制作に関する限り、安政度の内裏造営以後最も大規模な事業となっていたらしい。慶応四年正月には、准后御殿襖絵の制作を受けた土佐光文・光武・光章・岸恭・森義章・木村了琢の家周辺の火の元見廻りを入念に行なう旨の触れが出されており、制作作業がそれぞれの絵師の画室において行われていたことや、実際に制作活動が進行していた様子を知ることができる。

「新調道具御用絵様姓名控」においては、二曲腰屏風三双・二曲屏風十二双・六曲屏風八五双・八曲屏風一双総て百一双という膨大な量の屏風と、大衝立二基・袋棚小襖四枚を描き、机・書棚・文台・水入の蒔絵下絵を制作したことが記されている。参加した絵師の総数は八四名、土佐派・鶴沢派といった絵所絵師をはじめ、円山派・四条派・原派・岸派・海北派といった在京各流派の絵師が名を連ねる。確認できるかぎりこの内三三名が慶

近世土佐派記録 (六)

松 尾 芳 樹

京都市立芸術大学芸術資料館に所蔵される「土佐派絵画資料」の中から土佐家に関する文書の一部を翻刻し紹介する。ここに紹介する4点の資料は、土佐家による幕末期の障屏画の製作記録である。慶応三年(1867)、孝明天皇の没後まもなく、内裏所用の屏風・調度の調整と、孝明天皇女御であった九条夙子のための御殿新造にともなう障屏画新調が企てられ、絵所である土佐家・鶴沢家をはじめとする、多数の在京絵師に対して、内裏から障屏画の製作が依頼されたため、大事業となった。本資料には、この事業に関わった絵師名と画題及び仕様が記されている。また、九条夙子の実家九条家における襖絵の補修に関する記録は、公家住宅における襖絵補修の実態をうかがわせる資料となっている。

- 二二二. 新調道具御用絵様姓名控 慶応三年(1867)
- 二二三. 准后御殿新調屏風治定帳 慶応三年(1867)
- 二二四. 准后御殿御間絵様控 慶応三年(1867)
- 二二五. 女御里御殿御絵繕御用控 嘉永元年(1848)

主要項目：土佐派 鶴沢派 准后御殿 英照皇太后 障屏画 九条夙子 土佐光文 土佐光武
土佐光章 九条家

DOCUMENTS OF TOSA SCHOOL IN PRE-MODERN AGE (VI)

YOSHIKI MATSUO

A part of the documents on the Tosa Family are reprinted from among the collection of the reference materials on the paintings of the Tosa School owned by the Museum. These four materials are the production records of door and screen paintings that the Tosa Family recorded in the Edo period end. As soon as Emperor Koumei dies in 1867 the production of the folding screens and furnitures that uses it in the Imperial Palace was planed. The production of door and screen paintings was asked from the Imperial Palace to many Painters lived in Kyoto, including the Tosa Family and Turusawa Family belonged to The Imperial Court Bureau of painting. Therefore this became the large business to the painter of Kyoto. Subsequently, the making of door and screen paintings accompanied by the construction of the palace for Asako Kujyo who is in the quasi-Empress rank of Emperor Koumei was planed. Therefore the business expanded more and more. The name of the artist that got involved in this business and the subject of painting and also specification are written to these materials. And, the record about the repair of the sliding door picture in The mansion of Kujyo Family which is the parents' house of Asako Kujyo is the material which show the situation of the sliding door picture repair at the court noble residence. Also, the record regarding the repair of the sliding door picture in The mansion of Kujyo Family of the parents' home of Asako Kujyo is the data that show the situation of the repair of the sliding door picture in the court noble residence.

- 222 List of the paintings and furnitures that was made for the Imperial Palace 1867
- 223 List of the screens paintings of the palace for Asako Kujyo who is in the quasi-Empress rank 1867
- 224 List of the door paintings of the palace for Asako Kujyo who is in the quasi-Empress rank 1867
- 225 Estimate book of the repair of the sliding door pictures in The mansion of Kujyo Family 1848

Key term : Tosa school, Tsurusawa school, Palace for the quasi-Empress rank, Empress Dowager Eisho, door and screen paintings, Tosa Mitsubumi, Tosa Mitsutake, Tosa Mitsuki, Asako Kujyo, Kujyo Family